

タイガープレイス：ペットと年齢を重ねていける素敵な場所

TigerPlace: A Unique Setting for Aging in Place with Companion Animals



ミズーリ大学獣医学部 ヒューマンアニマルインターアクション研究所 (ReCHAI) 所長 / IAHAIO (人と動物の関係に関する国際組織) 会長・レベッカ A. ジョンソン

Rebecca A. JOHNSON, PhD, RN, FAAN, Director, Research Center for Human Animal Interaction (ReCHAI), College of Veterinary Medicine, University of Missouri, President, International Association of Human-Animal Interaction Organizations (IAHAIO)

○レベッカ・ジョンソン

本日は、お招きくださいましたことにお礼申し上げますと思います。私は、今日こちらに参りましたことを非常に光栄に思っております。そして、このように獣医学やペット業界からのすばらしいリーダーの方々とともにお仕事ができますことを非常に光栄に思っております。

私は、ミズーリ州のヒューマンアニマルインターアクション研究所の所長として参りました。御存じの方いらっしゃるとは思いますけれど、ミズーリ州というのはまさにアメリカのど真ん中にあり、「中心なのに何もなかったところ」だと言われたりするんですけども、そ

れはユーモアとして笑っていただければいいのですが、言葉を超えてのユーモアの理解はチャレンジですね。とにかく地理的に見ましてアメリカの中心から来たということになります。私は大学の獣医学と看護学、両方の職員であり、老人・老年看護で博士号 (PhD) を取得しました。ですから高齢者に対するケア、そして看護、そしてその改善に焦点を当てて研究をしております。私は英語でもってもちろんスピーチをいたしますが、皆様方は日本語をスライドで見えていただくことができます。

本日、まず IAHAIO の会長として参加できることを光栄に思っております。IAHAIO は、ヒューマン アニマル インターアクション、人と動物の相互作用に携わる国際的な組織です。グローバルなネットワークを持っています。この組織の会長といたしまして、そのメンバー、HARS や JAHA などの皆様とお会することができ、嬉しく思っています。

昨晚も、JAHA の皆様と非常にすばらしい夕食をともにさせていただきお話をさせていただきました。IAHAIO を代表してお話できることは大変光栄なことです。

それではまず、このスライドに、IAHAIO についての説明が書かれていると思いますのでご紹介します。私どもの設立、そして目的が書いてあります。目的は大きく分けて、研究、教育、人と動物の相互作用そしてそれを新たな、これまでに前例のない方向に推進していくことです。ですから、すばらしい会議を開催してきましたが、次の会議が 2013 年に予定されていて、このことについては、また後ほどお話ししたいと思っています。【スライド 1】

15 カ月前に私は会長になって以来ウェブサイトの改新、革新をいたしました。ぜひ皆様にも見ていただきたいと思っています。私たちは、人と動物の相互作用をさらに推進していくための戦略的計画を立て、そして我々のゴールや使命の再確認をしました。また、包括的な



【スライド 1】



【スライド 2】

組織にするため、会員のカテゴリーの整理もしました。

それから、ウィリアム・F・マクロック賞というものを設立いたしました。まさに初めて、2013年の会議から賞を付与するということになっています。これはヒューマン アニマル ボンドの設立者である Dr. レオ・ビュースタッド氏元々一緒に活動していた獣医、Dr. マクロック氏の功績を称えて設けられた賞です。彼の名前のついたこの賞を、素晴らしい教育や活動をしている世界の誰かに与えることとしたわけです。【スライド3】

さらに喜ばしいご報告は、アメリカ獣医学協会との、新たな素晴らしい提携です。そして、私どもの2013年度の会議は、シカゴで開催されます。私の故郷でありまして、喜んでおります。この会議は、アメリカの獣医学協会の第100回の会議とともに開催されることになっています。獣医学協会とIAHAIOが連携するのも初めてのことで、大変わくわくしています。この新しい協力体制が築けたことは、本当にすごいことです。獣医学は人と動物との相互作用を理解するので、そうすると2016年は人の医学会議と共催し、いわゆる人の医学学会と獣医学会が共に、ワンヘルス（一つの健康）、ワンメディソン（一つの医学）、そして人と動物の相互作用を考えはじめるようになることを期待するわけです。さあみなさん、2013年7月20日～22日、ぜひシカゴにお越しください。【スライド4】

2011年度の会員調査を行いました。会員は、私どもの会議に対して、非常に高い評価持っていることがわかりました。そして、IAHAIOの会員であることは価値があると感じてくださっています。ですから、ぜひほかの人と動物の相互作用係に関わる組織の方もIAHAIOに加盟していただきたいと思います。力を合わせれば強くなります。そしてIAHAIOは、信頼性の高い組織です。

申し上げましたように、IAHAIOの会議は会員にとっても非常に重要なものであります。しかし、会員からは、もっとインタラクション（相互交流）の形で、お互いに話をしたり、プロジェクトを共有したり、アイデアを出し合って新しいプロジェクトを開発したりできないかという声をいただいています。【スライド5】

これはロジックモデルなんですけれども、ロジックモデルで考えるというのはアメリカ人が大好きで、私たちも好きなんです。まず戦略が左側にあります。そして、真ん中にはフォーカス（焦点）、そしてアウトカムということで、結果が右側にあるわけです。我々が求めているのは本当に右端のところですが、IAHAIOがまさにHAIの源となりたいと。すなわち、動

IAHAIO's Incorporation & Purposes 設立と趣旨

1992年アメリカ、ワシントン州にて設立（5019(c)(3)。現在地球規模で31の会員団体が活動している。

趣 旨：

- マルチナショナルな団体間で、人と動物、相互の福祉に関するアイデアや情報交換の場となるフォーラムを開催。
- 国際的受賞を含む、HAIにおける新たな研究や、教育的、実践的開発の推奨。
- 科学、教育、実践分野における国際会議のサポート、企画、主催。
- IAHAIOの目的や活動をサポートする出版物の奨励。

【スライド3】

IAHAIO 現状と展望

- ウェブサイトの改訂
- 戦略的計画
- Surveyed our membership
- 会員カテゴリーの再編集
- 優秀なHAIの実践や教育にウィリアム A. マックコロック 賞を授与
- AVMAとの新規協力体制
- IAHAIO 2013大会（イリノイ）

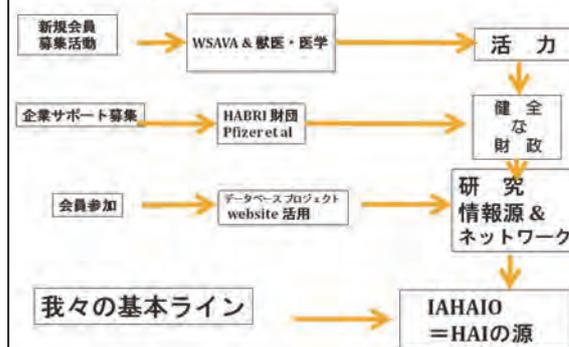
【スライド4】

Membership Survey 2011 2011年度会員調査

- IAHAIOの評価 高水準
 - 三年に一度の会議 高水準
 - ネットワーキングの機会 高水準
 - 賞 高水準
- 要 望:
- より良い会員間コミュニケーションの方法
 - より良い会員の活動内容の情報発信
 - 協力の機会の増加
 - オープンメンバーシップの機会の増加

【スライド5】

Our Logic Model



【スライド6】

物と人との触れ合いの源になりたいと考えています。そうなるためには幾つかのことがあります。まず積極的に新しいメンバーを募集します。そしてそうしてきました。ここでは幾つかリストアップしておりますけれども、新しいメンバーを募集するときに、さらに右のほうに行くわけです。さらに活力がふえる、新しいアイデアが生まれ、情報交換が盛んになります。

さらに企業サポートの募集も求めています。ファイザーが今、ウィリアム F. マクロック賞の資金を提供してくれています。そしてハブリー (HABRI) 財団とも一緒に活動しています。これは人と動物のきずなの研究を行っている財団で、2010年に米国ペットプロダクト協会によって設立されました。この財団と今、ハブリーセントラルというプロジェクトを行っております。これはオンライン図書館でありまして、人と動物の相互作用についてのすべての文献、出版されているものもないものもこの中にあります。現在いろいろなところの散在している、いろいろな文献も、一つのところに集約され、そして皆が一つのところにアクセスすればウェブでもって見ることができるといことで、これは非常に画期的なことでもあります。これは3月1日からオープンになる予定ですのでぜひ見ていただきたいと思います。【スライド6】

私どもはウェブサイトを増大することで会員の要望に応じてきましたし、また、データベースプロジェクトを開始し、AAA(動物介在活動)で仕事をしている人たちと、臨床データ、結果データ、AAA訪問後の結果などのデータを収集します。AAA訪問がいかによいかと私たちの望むことを言うことはできますが、ちゃんと結果のわかるデータを出して、きっちりとした科学的データとして信じていただきたいのです。ですから科学的データが必要です。そして、研究情報源とネットワークの部分を作ります。そしてこの右端にIAHAIOがまさにHAIの源となるということになるわけです。ですからこれから先、会員を増やし、新しいパートナーシップを築いていきたい、そしてこの分野をこれまでにない画期的な形でさらに推進していこうと思っております。【スライド7】

では、ミズーリに戻ります。アメリカの中心なのに何もないと言われていたところなんです。ここは私どもの大学でありますけれども、400人以上の生徒がおりまして、4年間のカリキュラムとなっております。看護大学は500人近くのバカロレアの資格を持った学生がおりまして、約200人のマスター(修士)の学生と約50人のp h D、博士号の学生も学んでおります。

IAHAIOのこれから

- 地球規模で会員が増加中。
現在46団体以上。
- 獣医学と(人間)医学間の新たなパートナーシップの構築。
- HAIをさらに推進していくための画期的プロジェクト。

【スライド7】



【スライド8】

ミズーリ大学でありますけれども、土地付と大学(ランドグラント)です。私どもの大統領、トーマス・ジェファソン大統領の方針のもとにできたものであります。トーマス・ジェファソン非常に教育に熱心な大統領でありました。ミズーリ大学は、1839年、アメリカがメキシコから土地を購入して作られた最初の大学です。この土地購入政策を私どもは「ルイジアナ購入」と呼んでおります。これはアメリカの歴史の話ですが、詳しい方はいらっしゃらないでしょうか、たまにいらっしゃるときがあります。【スライド8】

ということでミズーリ大学は、教育、包括的な教育を州の一般庶民に与えるという任務があります。そして同時に、たくさんの人々がこの州の外からも来て、そしてこの大学で学んでおります。看護大学の研究で非常におもしろいものがあり、ご紹介したいと思います。私どもの看護大学は、300余あるアメリカの看護師学校の中で、NIH研究予算供与金学のランキングで第15位であります。【スライド9】

なぜ「タイガー(トラ)」なんですか。ここにトラ年生まれの方いらっしゃいますか、いらっしゃらないですか。私はさる年なんです、実は、トラ年ですか。それはよかったです。じゃあ、トラですね。本当のトラですね。

アメリカではちょっと変な文化がありまして、何でもいろんなことにマスコットを持ちたがるんですね。スポーツチームもしかり、大学もしかり。トラというのはミズーリ大学のマスコットなんです。これまで、もちろんミズーリに、トラは動物園以外にはおりませんけれども、なぜ、だからトラなのかというのはよくわからないんです。非常にパワフルなすばらしい大きな動物でありますので、多分大学にそうやって欲しいという願いを込めて名付けられたのでしょうか。とにかくマスコットはトラなんです。そしてトルーマンという名前なんですがハリー・トルーマン大統領を覚えてらっしゃる方いらっしゃいますか。ちょっと気が引ける思いで申し上げますが、彼が日本に、長崎に、広島にひどいことをした張本人です。そして彼はミズーリ出身なんです。ミズーリでは尊敬されております。彼がミズーリから出た唯一の大統領なんです。よってトルーマンというのが、このトラのマスコットの名前なんです。ミズーリ大学で何でもトラがついてるんですね。「タイガープレイス」というのはこういったことから由来している名前なんです。右の下、フットボールのゲームであります。フットボールを見るために6万人も集まるんですよ。もうみんなアメリカ人は、このアメリカンフットボールが熱狂的に大好きなんです。私はスポーキチではありません。【スライド10】

では、なぜ、人と動物の相互作用についての研究センターがミズーリ大学なのかということですが、ミズーリ大学には四つキャンパスのシステムがありまして、これを全部合わせてミズーリ大学と呼んでおります。私どものほうはMU、ミズーリユニバーシティと呼んでおりますが、なぜここにセンターがあるのでしょうか。

これは夫と犬の写真です。とってもキュートですよ。見てください。私のファミリーなんです。でも、連れてこれなかったので写真を見せております。

この人と動物の相互作用のセンターがあるのは、「健康は一つ、医学は一つ（ワンヘルス、ワンメディソン）」のコンセプトがあるからです。考え方として、動物の健康、そして人の健康は別ではない、リンクしている、それぞれに相互作用がある、依存している、それぞれ別個には研究できないということなんです。ですので、「健康は一つ、医学は一つ」なのですがそれが実施できるのはアメリカの大学ではたった5校でその一つがミズーリだということです。それはそれに必要な学部：獣医学、医学部、看護学部、リハビリ療法学、作業療法学、法学、ジャーナリズム学、すべてを持っている

Land-Grant Mission Founded 1839

- 最初の大学 T.I.の「ルイジアナ購入」
- 市民と学生の教育
 - どの分野においてもバランス良い教育を提供。特に看護師不足のため、SSON に力を入れる。
 - 他の分野の学生にも高齢者問題を教えている
- SSONでの研究
 - 米国の300ある学校の内15校が、国の助成金で高齢者の研究を中心に行っている。



Thomas Jefferson



【スライド9】



MU=Land of the Tiger ミズーリ大学=虎の土地

- 大学のマスコットは虎の「トルーマン」
アメリカの大統領トルーマンにちなんで名づけられた。



【スライド10】

HAIのセンターはなぜミズーリ大にあるのか？



One Health, One Medicine:

獣医学部、医学部、看護学部を同じキャンパスに持っている大学は全米で5つしかない。

【スライド11】

があるからで、そういった大学はアメリカで五つしかないんです。ですので、ここに拠点を置いているのです。私が2005年に開設しました。その使命は非常に純粋で単純です。人と動物の相互作用による健康促進について研究し促進させようというもので、そのためにあるんです。【スライド11】

これがセンターの目的です。読み上げませんが、リサーチをいたします。そして、教育の機会を与えます。教育の機会はここにいらっしゃる私どもの同僚にも提供しました。こちらのハマノ先生は、私どものところに來られて6カ月間一緒にお仕事させていただきました

たよね。【スライド 13】

これはプログラムの例であります。余り詳細には触れません。読んでいただけたらと思います。たくさんの研究やプログラムの実施をコミュニティーで行っています。人と動物と一緒に何か健康的なことをするとどんな利点があるか、そして人と動物両方の健康にどんなプラス効果があるかを示しています。私は今コンパニオンアニマルについてのみお話しています。どうぞプロジェクトのタイトルを読んでください。時間もありませんので、ざっとお見せしたいと思います。活動的な場所だとおわかりいただけると思います。ねえハマノ先生？【スライド 14】

タイガープレイスというのは、これが私の本日の主題なんですが、必要性から生まれたところなんですね。アメリカというのは 2030 年、30%以上の人口が 65 歳以上となります。日本でも急速に高齢化しているということですね。ですので、何かしなければいけない、効果的にこれを是正しなければいけない、こういった高齢者群のニーズを満たさなければいけない、そういった必要性から生まれたのがタイガープレイスなんです。というのも、高齢者というのは年を重ねるごとに更なるヘルプ、ケア、サポートが必要になります。ですけども、高齢者、「シニア」と私どもの文化では呼んでおりますが、シニアというのは、アクティブに動き回りたい、できるだけ健康にいたい、できるだけ長く健康にいたい、そしてできるだけ独立していたい、そして子どもに依存したくない、これがアメリカの文化なんです。非常に個人主義的な文化ですね。ですので、子どもの重荷になりたくないというのがアメリカの考え方なんです。【スライド 15-17】

どのようにアメリカで人は年をとるんでしょうか。自宅にまず住んでいますよね。レーザーポイントを使いましょうか。自宅ですよね。そしてその後に、サービスタフの高齢者住宅に移る。そして介護つきの住居に移る、そこから老人ホームに移る、そしてその後、病院です。そして病院で死にます。これがアメリカでは高齢者が加齢とともにたどる軌跡なんですね。しかし、文化が変わってきております。若い世代は高齢者から離れていく。異なった世代と一緒に住まない、もっと個人主義なのです。みんな職を持っていて、家で高齢者の介護をする人がいないのです。だから、違うモデルこれに合った生活モデルが必要なのです。【スライド 18】

研究の結果、私自身の研究でもそうですが、高齢者が住居を何度も変えると、より介護が必要になり、結果的に健康にもマイナスの影響が出ます。ひどくなる

ReCHAI'の使命:

ヒューマンアニマル
インターアクション
(HAI 人と動物の相互作用)が
健康にもたらす効果
についての研究と促進

2005年設立



【スライド 12】

ReCHAI's Objectives 目的

- HAI 調査研究のための資金調達
- HAI 研究&プログラムの実施
- HAIの情報発信
- HAI会議などの開催
- 学生や一般人の教育

【スライド 13】

ReCHAI プログラム

犬の散歩で 贅肉減らそう

コミュニティー犬の散歩プログラムは、シェルター犬を散歩することで、市民の運動量を増やそうというもの。

人とコンパニオンアニマルのふれあいコース

大学、大学院のコースでHAIの歴史や理論、自然に関する問題やHAIやAATの臨床への応用を学ぶもの。

シニアの友達

州の動物介在トレーニング、認定、実施プログラム。

【スライド 14】

ReCHAI プログラム&研究

タイガープレイスペットイニシャティブ

TigerPlace Pet Initiative (TIPPI)- ペットと過ごす高齢者住宅。獣医設備を完備。CVMの学生は、高齢者とペットと一緒に対応することを学ぶ。またAAAプログラムも含む。

ペットパルの研究

Pet Pals Study- 高齢者施設の老人の孤独問題や、新規入居者への犬の訪問の影響に関する研究。

北アメリカVMTH ICU訪問政策の研究

N. American VMTH ICU Visitation Policies Study- ペットと飼いがICUを訪問する政策と試み。

退役兵とシェルター犬の研究

Veterans and Shelter Dogs Study- イラクやアフガニスタンから帰還した退役兵がシェルター犬のトレーニングを通じて自身のPTSを軽減させる。

【スライド 15】

ReCHAI 研究

ハンド（人の手）&ボウ（動物の足）
Hand and Paw Study- 放射線治療を受けている患者さんへのセラピー犬訪問の研究。

ペット ア ペット研究

Pet-A-Pet Study- 人と犬またはロボット犬とのおとなしい接触の後の血清神経ホルモンの変化についての研究。

犬の散歩プログラム

Dog Walk Program- 成人において、「貸し出し犬」とハンドラーによる定期的な運動がもたらす、体重減量の影響についての研究。

訪問に関するオーナーの受け止め方

Owner perceptions of visiting their dogs in VMTH ICU -
オーナー（飼い主）の訪問の感想と体験。

【スライド 16】

TigerPlace: Innovation out of Need タイガープレイス：必要性から生まれた場所

- 米国では65歳以上の人口が最も急激に増加している。
- 高齢者は自立した生活を保つためにかなりのサポートを要する。
- 今日の「シニアたち」は活動的で子どもに頼りたくないと思っている。

【スライド 17】

Typical U. S. Trajectory of Aging 典型的なアメリカ人の年の取り方

- 自宅 ⇨ サービス付高齢者住宅 ⇨ 介護 ⇨ 老人ホーム ⇨ 病院
- 近年の世の中の変化
人が移動する社会になった。
家族が働いている。（共働きなど）
より一個人を尊重するようになった。
高齢者の介護を家族ですることが少なくなった。
- 研究により、高齢者は介護を求めて引っ越しを重ねていることが明らかになった。
うつ症状の発症
短期的記憶力の低下
痛みなどの増加

【スライド 18】

Our Vision: "Aging in Place" 我々のビジョン：「年を重ねる場所」

- 高齢者がより良い介護を求めて転居することなく、尊厳を持って年齢を重ねられるような施設。
- 高齢者がペットとともに入居できる住居。
- 自立したライフスタイルが保てる場所。
- 高齢者の長期介護の在り方に劇的な変化をもたらす、米国の優良ナショナルモデル的存在。

【スライド 19】

とうつになり、転倒したり、失禁したりと、より良い介護を求めて動かしまわると様々な問題が発生するという風になってしまいます。ですから自宅にできるだけ長く居られる方が良いのです。

ですので、「タイガープレイス」のビジョンは、高齢者が尊厳を持って歳を重ねることができる、必要に応じてサポートサービスや看護が増やしていけるというものです。そして犬と猫とともに最後まで過ごすことができるという場所なんですね。

ですから歳を重ねる場所の基盤となるのは、細かいケアのコーディネーション、予防の活動、そしてとても早期に、ことが大きくなる前に問題を察知すること、必要とされる介護や看護を提供すること、そしてペットと一緒にいられることです。我々としては、できるだけ人々の健康でいられる時間を長くしてほしいと考えています。そしてペットと共に過ごしてほしい、うつになって、病気になって、尊厳のある生活ができなくなるような高額な老人施設に入るようなことを避けていただきたいのです。【スライド 19-21】

看護学校は「アメリカケア」という、その当時で22年間、看護ケアを提供してきた会社と提携しています。そしてその会社が3,000万ドルをかけてこのビルを建ててく

Aging In Place Foundation 「年を重ねる場所」財団

- RNケアコーディネーション/コミュニティーケースマネージメント。
- 健康と自立を最も効果的に回復したり保ったりするための、適切なサービスを適切なタイミングで提供。
- ペットを飼うことを奨励し、サポートする。
- 研究と教育の機会の提供。

【スライド 20】

Our Goals for TigerPlace Residents 我々が求めるタイガープレイス居住者のゴール

- より健康に、より長く活動的に過ごす。
- ペットを飼い続ける。
- 高額で衰弱させる入院を避ける。
- 老人ホームへの転居を避ける。
- 生きがいのある活力ある生活を最後まで全うする。

【スライド 21】



Americare Systems, Inc.
アメリカシステム会社

- 1999年秋、SSONはアメリカア社とパートナーシップを結んだ。
- アメリカシステム社
 - 介護と看護施設を手掛けて22年の歴史を誇る。
 - 米国内で業界トップ50にランキングしている。

TigerPlace landlord

【スライド 22】



INDEPENDENT LIVING BY AMERICARE[®]
& THE SINCLAIR SCHOOL OF NURSING

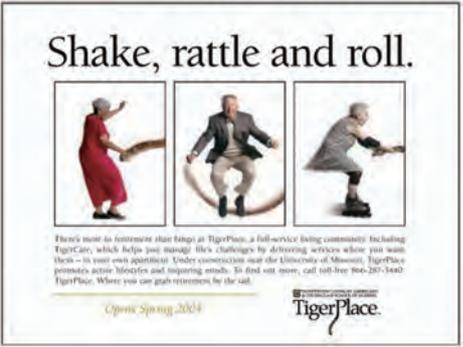
TigerPlace[™]

1999年と2001年の法律制定により開設。
2004年に31戸のアパート、2009年にさらに23戸入居。
高齢者の自立を奨励し、ペットと共に年を重ねている施設として設計されている。
老人ホームとして建設されているが、介護付きで自立生活の施設として運営され、人生が全うできる住居である。

2011年、85戸（大半がプライベートルーム）がオープン 要リハビリ

【スライド 23】

タイガープレイスの最初の宣伝広告



Shake, rattle and roll.

There's more to retirement than being at TigerPlace, a full-service living community including TigerCare, which helps you manage life's challenges by delivering services where you want them—in your own apartment. Under construction near the University of Missouri, TigerPlace promises active lifestyles and inspiring views. To find out more, call toll-free 866-207-1669. TigerPlace. Where you can gain retirement by the tail.

Open Spring 2014

【スライド 24】

Collaborating MU Schools & Colleges ミズーリ州立大学のスクール&カレッジ間の連携

- 獣医大学
- 工学大学
- ビジネス学校
- 人間環境科学大学
- 医科大学
- 健康専門家大学
- 教育大学
- 文理科大学

【スライド 25】

れました。その会社が建築してくれ、メンテも運営もしてくれています。これがタイガープレイスの正面の写真です。タイガーテールということで、しっぽですね。いろんなところにこのしっぽのマークが出てくるんですけども、アメリカ人はばかげたことをすると考えておられるかもしれませんが、そうなんです。最初31戸のアパート（マンション）から始めましたが、すぐに満室になりました。そこでタイガー2を建てることになりました。これもすぐにいっぱいになってしまったんですね。23戸が入居するアパートでした。それで何戸か数はわからないんですけど、もっと収容できるようにタイガー3を建てました。これは7月にオープンするんです。ですから、急速に拡大しているわけです。この建物を建てることによってすべてのケア、すなわち生涯にわたるケアすべてをこの中で用意しようというのが我々の概念なんです。【スライド 22-23】

これが最初の宣伝広告です。タイガープレイスの最初の宣伝なんですけれども、楽しもう、そしてポジティブにやろうという考えに基づいています。そして、タイガープレイスに引っ越せば素晴らしいことがあるよということ、そういったことを訴えるような宣伝なんです。とっても明るく楽しく。そしてここで健康に、幸せに暮らしていただきたいと願っています。ペットも連れてきて、そしていない人はペットを持ってください。ペットがいない人にはペットを見つけるお手伝いもします。ですからぜひいらしてくださいというようなメッセージを伝えました。そしてタイガープレイスにみんな来たがるんですね。長いウエイティングリストができました。【スライド 24】

さて、こちらがプロジェクトに参加しているミズーリ大学のスクールやカレッジが書かれています。たくさん参加していることがわかると思います。建物をつくるために設計をしてくれた建築学部、庭や作り、ランドスケープをデザインしてくれた園芸学部もあります。我々は力を合わせて働いたわけです。とても素晴らしいことです。【スライド 25】

これがタイガープレイスに入居する人が自動的に受けられる一般サービスのリストです。コンシエルジュのサービスを利用すると、行きたいところに連れていってくれます。予約先や医者や買い物、カジノにまで行きたいと言えば連れていってくれるんですね。タイガープレイスの住人は結構ギャンブル好きな人も多くて、ギャンブルにも行きます。すべての住居でインターネットのアクセスができ、コンピューターがあります。そして、専属のシェフがいる、レストラン形式のダイニ

TigerPlace General Services 一般サービス

- 管理サービス (週7日間)
- 買い物や予約などの送迎
- テクノロジーセンター-PC & インターネットアクセス
- レストラン形式ダイニング (コンチネンタル朝食&チョイスできる昼食、夕食)
- 大学関連 (キャンパス内外) のイベント
 - スポーツイベント
 - コンサート
 - 展覧会
 - レクチャー、ディスカッション
 - 文化交流
- 毎週の掃除とメンテ
 - 電気、ガス、水道など (電話と配線以外)
 - メンテのかからない成果生活

【スライド 26】

Tiger Care Services 介護サービス

- RNによる年間評価
 - 1年に4回RNが訪問
 - RNは毎日 (週7日) スタンバイ
- パーソナルケア (介護) サービス
 - 入浴、身支度、着替え、簡単な整頓、料理
- 投薬の管理
 - 個人の主治医、薬剤師、家族と連動。
 - 薬の注文、薬箱やディスプレイへの補充。
 - 薬に関する問題などがないか観察。



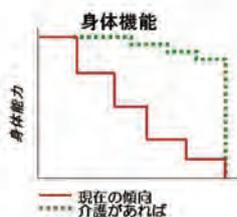
【スライド 27】

Aging in Place Interventions 年を重ねる場所における介入

- RN 看護師 介護コーディネーター
- ペットの問題に対応する獣医
- 高齢者の家と施設でのフォローサービス
- 最低月一回の介護プランのフォローアップ
- 健康促進
- 早期介入

【スライド 28】

Squaring the Life Curve of Seniors 高齢者の生活グラフの形を変える



- 身体機能の低下を減らす方法
- 社会サポート&ペットを飼うことを促進
 - 活動レベルの査定
 - パターン変化の認識
 - 健康衰弱の初期症状を察知 (深刻な事態になる前に介入)
 - 転倒を予測
 - RN介護コーディネーションに連絡

Rantz, Marek, Aud, Tyrer, Skubic, Demiris & Hussain, Nursing Outlook, 2005

【スライド 29】

ングがあります。専属シェフを雇っていることで、食べたいものをいつも選択できます。みんなで同じものを食べなくてもいいんです。そして、自分たち個人個人の生活を楽しむことができるというのが最も重要なポイントです。

タイガープレイスは大学のプロジェクトなので、大学にもアクセスもできるんです。タイガープレイスの住人はフットボールの観戦に来ます、連れてきてもらえます。大学のキャンパスで行われるコンサートや演劇、展覧会などに行きます。そして入居者は住居のメンテの心配もありません。全てやってくれます。

それからナースですけども、これは1年に4回ナースが訪問するんですけど、健康であればそれは必要ないわけですね。必要なものだけを受けるのです。助けが必要な人にはパーソナルケアも提供しています。入浴であるとか、あるいは身支度、身だしなみ、そして簡単な家事など一切を提供しています。薬を飲むのを忘れてしまう人には投薬の管理なども提供しています。そして問題の兆しをできるだけ早く察知するようにしています。【スライド 26-27】

ここ、歳を重ねる場所、タイガープレイスでは、RNや登録看護師が介護のコーディネーターを行います。そして、獣医がペットの問題に対応します。実際にタイガープレイスには17匹のペットがいて、共に歳を重ねています。高齢者には高齢のペットがいて、彼らには少し介護と助けが必要です。ですからそんな人たちと動物が自分たちの家にいられるようにするために、必要なサービスを提供するのです。そして、健康促進のためのアクティビティーやインフルエンザの予防接種なども提供しますし、どうやれば健康について、あるいは健康促進についての指導も提供します。

【スライド 28】

これが我々人間が標準的に年を取って死ぬまでの経過をカーブで示したものです。継続的に低下しています。そして、所によってかなり低下度が大きくなっています。転倒したり、大腿骨を骨折したりすると、低下度がきつくなるわけです。さらに、そこに認知障害などが加わり、思考能力も低下します。そして、このように低下し続けて病院に入院し、死に至るわけです。でもこれは我々の求めているものではないんです。これは尊厳のある健全な年の取り方ではありません。このモデルが、我々のタイガープレイスの求めている形です。すなわち長い安定期、できるだけ長い安定期を持って、そして少し低下する。さらに長い安定期を保って、そして少し低下する。そして安定期、そして最終



TigerPlace

【スライド 30】



【スライド 31】

Pet-Encouraging Construction ペットを飼うことを奨励する施設



- タイガープレイスはペットにやさしい
 - スクリーン付ポーチ
 - 広い窓枠
 - 屋外ドア
 - タイル貼りの玄関フロア
 - コートヤード (中庭)
 - 散歩道
 - フェンス

【スライド 32】

Common Areas 共有部分



- プライベートダイニング
- ミーティングルーム
- バー
- スパ (浴場)
- プール
- シアター
- 理髪店・美容院

【スライド 33】

的にはこのように亡くなるということですね。ですからある夜、犬と一緒に寝ていて、そして安らかに天国に召されるとというのが我々のゴールなんです。尊厳を持ったアプローチなんです。健康に対してフォーカスを当てる、そして病気予防、問題の防止をします。健康状態を最大限に保ち、最後まで活動的でいられるようにサポートする、そういう形です。【スライド 29】

これがタイガープレイスの玄関の写真です。アプローチ階段もありません。全て平らなワンフロアです。誰も階段を上り下りする必要がないんです。そして私にとって最も重要な案件は、ペットのための設備、ペットにフレンドリーかどうかということです。ですから、このビルを設計、建設するときにも私も深く携わっておりました。すべてが網戸つきのポーチなんです。ポーチのところに網戸がついていて、小さな部屋のようになっています。それによって、蚊など虫が入ってこないようにしつつ、猫や犬は、その屋外のポーチの中にいることができる。例えば猫はポーチにいて、鳥などを眺めて楽しむことができるわけです。そして、犬も、飼い主の高齢者もポーチに出ることができます。建物は正方形を囲むように建てられていて、真ん中に美しいコートヤード (中庭) があります。ですからその囲われた庭、コートヤードでの犬たちと遊ぶこともできます。【スライド 30】

そして、さらに窓枠も非常に広いものでありますので、窓枠から猫は外の鳥を見ることができます。それから、タイル張りの玄関フロアとなっておりますので、泥でいっぱいになった足でやってきて帰ってきた犬も、タイルですから汚れる心配はありません。そして、できるだけ散歩を奨励していますので、散歩道が建物の周りにあります。【スライド 31】

共有部分がいくつかあります。ご覧のように、ダイニングルームがありますね。そして、この柱ですけれども、キャンパスにある柱と非常に似てるんです。キャンパスと我々は近いんだという意識を持っています。それから居住者、入居者は、昼食、夕食をダイニングルームでとります。通常、朝食は自分たちのアパートのお部屋でとります。これはロビーです。ここでは家族と会ったり、自分たちがリラックスして、座って本を読んだりすることができるということになります。その隣にはビリヤード台があります。タイガープレイスでは、真剣にビリヤードに凝っている人たちがいらっやいます。【スライド 32-33】

スポーツバーもあります。ベンガル タイガーというトラにちなんで名前を付けて、「ベンガル レア タイガー

Amenities

アメニティー

- 運動室
- スポーツバー
- 図書室



【スライド 34】

Tiger Total Fitness

タイガートータルフィットネス

- タイガーフィットネスセンター
 - 最新のステップマシーンなどを含む、充実した機器
 - 毎日開催されるグループエクササイズクラス
 - 筋力と柔軟性を養うための、カスタム化されたプログラム
 - 屋外のタイガー散歩道

【スライド 35】



Pet-friendly porches & walk trails
ペットにやさしいポーチ&散歩道

【スライド 36】

Apartments マンション



- 使い勝手の良い1または2ベッドルームのマンション
- ペットにやさしい
- 月毎の契約
- ハウスキーピング
- 一日二食
- 洗濯場/台所

【スライド 37】

デン」(トラの隠れ穴)といひます。アメリカンユーモアというか、でもこれはスポーツバーで、ふうに、いわゆるスポーツバーで、毎晩楽しい時間が持たれています。夕方5時に開いて、人々が集まってきます。スポーツの試合などが大きなスクリーンTVで見ることができるわけです。

それから歩けるスイミングプールもあります。歩行できない人のためにリフトが付いています。それからシアターがあり、定期的に映画を上映しています。大学のプレゼンテーションもこのシアターで行われます。そして、いろんな情報を共有することが可能になります。そしてもちろん、美容院もあり、髪の毛のおしゃれができます。【スライド 34】

こちらはエクササイズルーム、運動室、そしてスポーツバー、そして図書室であります。いいでしょう？タイガートータルフィットネスというのがありまして、ここでは肉体運動にフォーカスを置いたものですよ。歩き続ける、エクササイズをする、ダンスクラス、太極拳のクラス、ヨガのクラスもあります。健康ですごすために、いろいろなエクササイズ、そしてグループアクティビティー、そして個々のトレーニングがあります。ですから、何か大変な病気になって病院から戻ってこられた人には、個人メニューのプログラムで体力回復をはかります。【スライド 35】

これは外の写真です。ここが先ほどお話した、この網戸つきのポーチですね。これが散歩道で、ご覧のようにずっと続いています。【スライド 36】

タイガープレイスでは、三つの形の住居があります。一つがエフィシェンシー型(効率)、これは、つまり大きなワンルームです。台所が壁際にあり、反対側の壁側にベッドがあり、間にリビングスペースがあります。このような形、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。次にワンベッドルーム(寝室1つ)型です。ベッドルームが別になっていて、リビングスペースとキッチンとバスルームがあります。そして、ツーベッドルーム型(寝室2つ)があります。一人女性で、ツーベッドルームを2つ使っている人がいます。つまり3000平方フィートのスペースがあります。かなりの広さです。家賃は月払いで、申しあげましたいろいろなサービス、1日2食の食事、そして洗濯、台所等々も含まれます。これはリビングですね。小さいキッチンがそれぞれついております。【スライド 37】

タイガープレイス ペットイニシアチブ(ペット奨励)であります。これが世界のほかのどの施設と比較しても、違うところだと確信しています。私たちはペッ



【スライド 38】



Each apartment has a small kitchen
各マンションに小さなキッチンがある

【スライド 39】



【スライド 40】

Mission & Goals 使命とゴール

- 科学的に証明されている、高齢者とペットに見られる人と動物の相互作用がもたらす健康への効果に基づき、タイガープレイスはペットを飼った環境となっている。
- 入居者のペットには優良の獣医ケアが提供されると同時に、獣医学の学生が高齢者について経験を通して学ぶことができる。
- ヒューマンアニマルインターアクション（人と動物の相互作用）の研究を促進。
- タイガープレイスで、飼い主が亡くなったまたはペットの面倒を見れなくなった場合、養子ケアと譲渡サービスを提供する。

【スライド 41】

トを許可するだけでなく、奨励しているということが非常に特徴的なことなんですね。タイガープレイス ペットイニチアチブ (Tippi) の使命とゴールは、入居者がコンパニオンアニマルとすごせること、そしてその動物たちにも質の高いケアを提供することです。なぜなら動物も歳を重ねていくからです。そして私たちはペットと暮らすことの利点についての調査も行っています。さらに、養子や譲渡サービス、もし入居者が入院された場合、その人のペットの面倒を見るサービスもあります。それからもしペットより先に飼い主さんが亡くなられた場合、これは高齢の飼い主さんには大きな心配事なのですが、そのペットの面倒を見、新しい飼い主さんを見つけてあげます。

ルールとしては、一戸につきペット2匹というふうに限度が決まっております。そして、共有部分ではどこでもいけますが、リードを使用することとなっております。そして、ペットが何かビルに損害を与えたときのための保障として前金をいただいております。新しいペットが来たら、それぞれを評価いたします。ワクチンは打っているか、そして行動は大丈夫か、何か健康の問題はないか、そういった記録を残していきます。そして、建物のすぐ隣にある獣医診察室にその記録を保管して、すべての動物の予防接種をしていきます。これが診察室で、これが診察台ですね。なぜこのようなことをしているのか。これがおもしろいから、楽しいからというだけではないんですね。科学的に、高齢者はペットと生活し、ペットと一緒に年をとっていくと、利点があるということが、わかっているからなんです。

ペットは無償の愛をくれます。アメリカの社会システムでは、もはや所得生産者でなくなったとき、お金を稼げる若い人たちに比べて自分は価値がないと思われがちです。でもペットは、その人がお金を稼いでいようがいまいが関係ありません。杖をついてしか歩けなくても無償で愛してくれます。高齢者は、健康状態が少しずつ低下していく中で、そのような無償の愛が必要なのです。朝起きる目的をペットは与えてくれます。ですから、ペットは高齢者にとっては家族の一員であり、所有物ではありません。彼らは家族の孤立したメンバーとして存在します。

そして、ペットは確かに楽しませてくれます。高齢者は楽しむきっかけが必要ですし、楽しむことは大切で、私たちは笑わなければいけません。年をとって老人ホームなどに入ると、笑う、そして楽しむ機会がだんだんなくなってきてしまいます。コンパニオンアニマル（ペット）と接することによって、精神的に良い

Parameters of Pet Ownership ペットを飼うにあたってのパラメーター

- 限度 = 2匹
- 共有部分ではリード使用で歓迎
- デポジット = \$250
- 全てのペットの査定
- 予防接種の記録を試験室で保管



【スライド 42】

Frequency of interactions by condition and category of interactee

	Friend	Acquaintance	Stranger	Total
Dog	34	57	65	156
No Dog	26	21	3	50
Total	60	78	68	206

The analysis confirmed the differences between the Dog and No Dog conditions in the overall frequency of interactions [$F(1) = 57.3, p < .001$]. However, the presence of the dog was associated with relatively few additional encounters with friends, but many additional encounters with acquaintances and, more particularly, with strangers [$F(2) = 30.8, p < .001$]. Although there was a substantial increase in the numbers of encounters experienced when in the presence of the dog, there was no interaction between the presence of the dog and the length of the encounters [$F(3) = 2.5, n.s.$], that is, the presence of the dog did not influence the length of interactions. There was no interaction between the presence of the dog and the sex of the interactee [$F(1) < 1, n.s.$], that is, the gender of the interactee did not influence the social catalytic effect of the dog.

McNicholas, J., & Collin, G. (2000). Dog as catalyst for social interactions: Evidence of the effect. *British Journal of Psychology*, 91, 617-68.

【スライド 45】

Scientific Underpinnings: Older Adults and Pets 高齢者とペット：科学的立証



- ペットは私たちが評価することなく、無償の愛をくれる。
(Allen, Blascovich, Tomaka & Kelsey, 1991)
- ペットはしばしば「家族の一員」として見られている。
(Cohen, 2002)

【スライド 43】

Psychosocial Benefits of HAI HAIの心理社会的効果

- ペットを飼っている人は 落ち込みにくい
(Garrity, Stallones, Marx, & Johnson, 1989)
- そして士気が高い
(Lago et al, 1989)



【スライド 46】

- who can inspire us to have fun!
誰が私たちがわくわく楽しませてくれるのだろう
(Berryman, et al, 1985)



【スライド 44】

影響が生まれます。たとえば犬と一緒に歩いていると、友達、知り合い、見知らぬ人など人と触れ合う可能性が、犬と歩いていないよりも多くなります。犬と歩いていると、より人目を引く、好意的な目を引くことがわかっています。【スライド 38-44】

ここに示すのが心理的な効果であります。ペットといる高齢者は落ち込みにくいんです。自分の辛さや痛み、行く末の心配をする以外に、だれかのことに、だれかのためにというふうに考えなければいけない。自分自身の疼痛、痛みではなくて、動物のことを考えます。ペットのことを考えます。そうすると、「モラル」(士気)

も上がってきます。士気というのは、高齢者にとって大事なことなんです。モラル、わかりますか。士気です。英語がわかる方いらっしゃいますか。意味がわかっていたら私に説明してください。トーマス、モラルって何ですか。何でしょうか。どういうことですか。

男性：「ポジティブ思考」ということですよ。

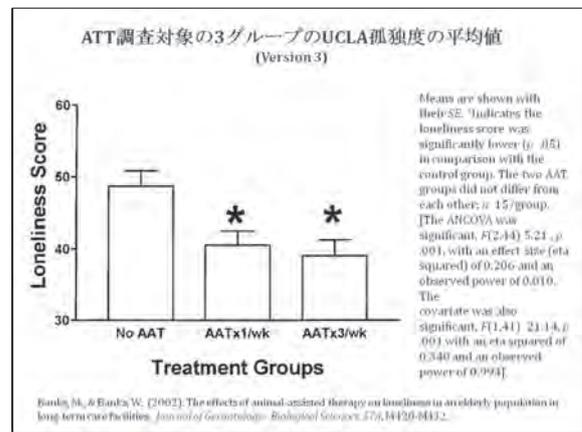
すばらしい、Aプラスの成績です。プラス思考、楽観的であることが「モラル」(士気)です。高齢者の方々にはプラス思考、楽観的であっていただきたいのです。

毎日、私はこれから死んでいくのだ、ここが痛い、あそこが痛い、誰も愛してくれない、というのではだめです。これは、私はできる限りのことをしている、痛みはあるけれども、それほどひどくもない、私にはペットがいる、愛してくれる、そして私自身のことのほかに気に掛ける存在がある、ということです。ですので、モラルを高く保つというのは、よりほかの世界に関与していくということで、家に孤独に引きこもることではないのです。うちの中において、テレビばかりを見ていると、だんだんうつになっていきます。これを前向き思考にしたいのです。モラルが上がれば、高齢者もハッピーになれる、そしてアクティブになれる。そして、そうすると、身体的にも健康な状態が保たれるということなんです。【スライド 45-46】

さて、急ぎましょう。このリサーチですが、おもしろいです。この意味だけをお伝えしますと、このグラフの2本の棒ですが、AAT 動物介在療法を行いますと、さみしさを抱えることが顕著に少なくなります。ですから高齢者と動物がかかわると、それほど孤独さを感じられないということなんですね。身体的なプラスももちろんあります。これらは全て私が前回来た時に日本で撮った写真なんです。高齢者ですが、日本にはペットという高齢者をいつも見ます。すばらしいと思いますよ。こういった方を見かけると、私はどうしても駆け寄ってハグしてしまいたくなるのですが、クレイジーと思われているのでしょうか。【スライド 47】

ペットという高齢者は、よく運動します。ペットと暮らしていると、もっと歩きますし、もっと考えます。犬を飼うと散歩しなければいけませんね。でも動物の面倒を見ようと思うと歩きます。そうするとつまり運動することになります。ペット、飼い主両方ともにプラスがあるのです。ペットという高齢者はより長く歩くことができ、血中脂質のレベルが良くなります。コレステロール、善玉、悪玉コレステロール、トリグリセリドなどです。これは幾つもの研究で、結果が明らかになっています。ペットといると、心臓病のリスクが下がり、心臓疾患があっても、発作の率も低くなり、遺伝的に心臓発作を起こしても1年間生存率高くなります。これは抽象的な意見ではなく、科学的な話です。

そしてこれもコレステロールの話ですが、私たちの同僚の日本のモトオカさん、そして横山さん、そしてケネディーが、高齢者にキングチャールズスパニエルを散歩してもらうという興味深い研究をされました。心拍数を計測する研究の結果でありますけれども、ここで測定しているのは、心拍と心拍の間の休息を計測したものです。しっかり休息してほしいわけです。その心拍の間にしっかり心臓が休んでいないと、心臓はすぐ疲れてしまいます。ですからここが高い方が良いのです。一人だけで歩いているとき、このレベルは60です。でも犬と一緒に歩いていると、この心拍間の心臓の休息の間が、一人の時と比べてかなりというのが良くなっています。そして、3日間計測してどうなっているかということを見ていきました。白いところが犬なし、そしてグリーンのほうが犬ありです。結果でありますけれども、1日たった後、プラスが累積的に上がっていきますよね。累積的です。3日目のほうが2日目と比べてもプラスの面があります。私は是非先生方にこの研究をリピートしていただきたいと願っています。もと長期にさせていただいて、どのあたりまで



【スライド 47】

Physical Benefits 身体

- ペットを飼っている高齢者は飼っていない人より良く運動し(Garrity et al, 1989)、医者に行く回数が少ない(Siegel, 1990)。
- 長く歩き、中性脂肪レベルが低い (Dembicki & Anderson, 1996)。そして...



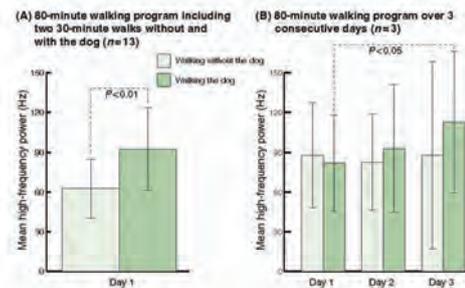
【スライド 48】

- ペットを飼っている人は飼っていない人より心臓発作後一年間の生存率が高く (Friedmann et al, 1995)。
- 血圧、中性脂肪、コレステロールの値が低い (Anderson et al 1992)。



【スライド 49】

Parasympathetic neural activity during dog walking 犬の散歩中の副交感神経の活動



Motooka, M., Koike, H., Yokoyama, T., & Kennedy, N. (2006). Effect of dog-walking on autonomic nervous activity in senior citizens. *MJA*, 184(2)60-63.

【スライド 50】

TiPPI 要素



- 獣医診察室
- DVM House Calls
- ペットケア アシスタント
- PAWSitive 動物訪問
- Bereaved Pets Endowment
- HILLS Feeding Program

【スライド 51】

改善するのか見たいです。私も年をとってききましたから、急いでいただきたいと思います。【スライド 48-50】

それでは、タイガープレイスに戻しましょう。私どもはあいまいなことではなく科学的なことをもっています。獣医の診察室がありまして、1か月に一回、全ての現在17匹のペットを訪問します。最初にこの診察を始めたとき、小さな高齢のご婦人方が、自分たちの犬や猫には獣医さんが家に来て診てくれるのに、自分たちの、人間のお医者さんは家には来てくれないのがおかしいと言っていました。でもこれが今のアメリカの現状です。人間の医療に関しては、医者はもう往診はしないことになっているのです。そしてこれを言ったら獣医さん達は喜ばれると思うのですが、人間の医者にはタイガープレイスに診療室を持ってもらい、そこから往診してくれないかと提案したら、自分たちの病院に来てくれればいいではないかという回答でした。つまり、NOということでした。

ここには往診してくださる獣医さんと、ペットケアアシスタントも雇っています。やはり歳を重ねていくと、問題があるときもありますので、介助が必要です。例えば小さな小さな注射、インスリンをペットに打たなければならないときに、注射針が見えないということもあるわけですね。もしここにいらっしゃる獣医さんで、高齢者にペットのインスリン注射を一日二回してくださいと言って返すような方がいたら、私は怒りますよ。このような場合、高齢者には助けが必要です。そこでアシスタントが必要な援助を提供するわけです。点眼をしたり、投薬をしたり、一週間に三回、チェックをしてみます。

さらに、「PAWSitive Visits (ポウズティブビジット)」(Paws とは前足のこと) というプログラムがあります。これは動物を連れて施設を訪問をするというものです。ただ単に自分のペットだけじゃなくて、ほかの動物もみていただきたいという思いからです。もうすぐ写真

をお見せしますが、動物たちがやってきて、セッションを持ちます。それから、飼い主さんが先立たれた後のペットの世話をする基金もあります。時には、飼い主よりもペットのほうが長く生きることがあるわけですね。しかしながら、それだからといってペットを持たない理由にはなりません。そして、ありがたいことに、ヒルズ® (HILLS) フィーディングプログラムというものがあります。これにより、援助が必要な高齢者の飼い主さんに、ペットに良い食べ物を低価格で提供することができます。【スライド 51】

Practice: In-House Pet Medical Care

インハウス獣医ケア



- タイガープレイスのペットに優れた医療ケアを提供する。



【スライド 52】

Education 教育

- 優秀な獣医

学習する学生
高齢者クライアント &
患者と仕事する経験



【スライド 53】

施設内の医療ということですが、こちらが獣医のジム・クリード先生です。ここが診察室の写真ですが、こちらにペットフードがあるのがわかります。クリード先生は必要に応じてこのインハウス診察室に動物を連れて行って、簡単な診察をします。ところで我々は何も地元の獣医の仕事を取ろうというわけではありません。クリード先生は診断だけをし、高齢者の飼い主に対して、例えば獣医に連れていかなければなりませんよと言います。飼い主の地域にかかりつけの獣医がいなくて、獣医学校のほうに連れていけますよと言います。すなわち、地元の獣医の仕事を取るわけではありません。獣医の訪問があることで、飼い主さんが見つけるより先に病気などの早期発見ができ

ます。またこれは獣医の学生にとっても良い学びの機会です。私どもの獣医学生は、高齢者と高齢のペットと仕事をさせていただく機会に恵まれているわけです。

【スライド 52-53】

クリード先生が往診している写真です。そして、飼い主と話をしています。入浴はどうか。そして、何か違う症状は見せていませんかということで、いろんな履歴なども診るわけです。さらに、ここタイガープレイスでは入居者の方に学んでいただきたいのです。クリード先生がクラスを提供しています。ノミなどをどういうふうに予防するか、あるいは糖尿病の予防、猫の糖尿病や腎臓病について、授業をします。そしてタイガーペットに問題が起こる前に察知することを教え、ケアやアシスタントと共に問題の早期発見をします。【スライド 54】

行動問題があるということであれば…これは小型ダックスですが、ご存知かと思いますが、ダックスはかなり個性的なのですが、ある日突然人を噛みだしたのです。ケアの人が飼い主の女性の部屋に入るとき、ドアを出よう、去ろうとすると、ダックスは追いかけてその人の足を噛もうとします。ダックスのこういった行動を御存じですか？私は知っています。日本ではそういうことはないかもしれませんが、やはり犬でもそういった挙動を示すということがあります。シャドーという犬がいたんですけども、その飼い主とこの問題を何とか解決したいということで、部屋のドアを出ようとする人が噛まれないようにシャドーは人が出ていくとき、閉じ込めることにしました。問題が発生するごとにそれに対応しているわけです。【スライド 55】

ペットケアのアシスタントは1週間に3日間訪問し、食べ物の供給状態もチェックします。動物の食べ物、そして水のボールも確認します。猫のケージをきれいにし、必要なことは何でもします。そしてドッグフードも提供します。高齢者にはドッグフードの袋は重たいものですのでこんな助けが必要です。高齢者に、ペットの世話ができないとか、ペットをあきらめるべきだとか言うのは非人道的です。それは高齢者の健康状態を深刻に低下させるものであり、動物にとっても愛する飼い主から引き離されることは、人道的ではありません。私たちがお手伝いすること、ほんの少し手を差し伸べる必要があるのです。ペットケアのアシスタントは、獣医を助けますし、飼い主が調子が悪くて散歩できないとき、ペットを散歩にも連れていきます。ここでは夜、犬の散歩をしているんですね。投薬もします。写真の一番上のところですが、点眼薬をさして

DVM Housecalls 往診



- DVMが全てのペットを訪問
- 診察室で軽い手当を行う
- ペットに関するクラスを開催



【スライド 54】

Lifelong learning about pets ペットについての生涯学習



- ペットの行動スクリーニングトレーニング
- 高齢者のためクラス
 - ペットの選び方
 - 日常の世話
 - 緊急時のケア
 - ペットトレーニング

【スライド 55】

Pet Care Assistants ペットケアのアシスタント



- 犬の散歩PRN
- 猫のトイレの掃除
- 備品補充
- 投薬
- DVMの援助

【スライド 56】

るところです。この高齢の女性の目では、犬に点眼することは難しいので、一日二回、このアシスタントが点眼薬を施しています。【スライド 56】

事例を紹介します。

1) これはペットと飼い主の成功事例なんですけれども、96歳の女性がいました。かなり高齢ですよ。非常に健康だったんです。最後に写真が出てきます。非常に健康な女性でしたが、28歳の猫とすごしていたんですね。猫にしてはかなり高齢ですよ。村田先生、どうですか。非常に猫としては28歳まで生きるとするのは、かなり長生きですよ。小さい子猫のときから

Case Study 1: タイガープレイスでの ペットと飼い主の成功事例

- 96歳の女性と28歳の猫。
- 「クレオ」(猫)は体重が減少、氣息そうでよだれを流し、次第に反応が鈍くなっていった。
- 「クレオ」は DVM の診察を受け、獣医クリニックに連れて行かれた。
- 糖尿病と診断されインシュリンの投与が開始された。
- ペットケアのアシスタントが、午前と午後インシュリンを3か月間に渡って投与した。
- 猫の病状は軽くなり、飼い主は「クレオがいてくれるから朝起きれる。」と語っている。

【スライド 57】

28 年間一緒に暮らしてきたのです。ですから、ペットケアのアシスタントが訪問したとき、クレオ (猫の名前) はどこ? というふうに聞いたんです。すると彼女は、余り調子がよくないみたい、何かおかしいと言ったんです。そしてアシスタントが、部屋に入るとクレオは非常に状態が悪い、ほとんど死にそうな状態で、よだれは流していました。そこで獣医が診察をしました。この猫は 28 歳でしかも糖尿病を発症していました。そこで、インスリンの投与が始まりました。アシスタントが一日に二回訪問して、朝と夜にインスリンを打ちました。そうすると、猫は急激に回復したのです。もう糖尿病もない、インスリンも必要ない。そしてまた子猫のように走り回るようになりました。本当に魔法のようです。なぜこんなことが可能なのか、わけがわかりませんが、すばらしい軌跡が起こったのです。そして、この女性が言うには、クレオがいるからこそ朝が起きれるのだと。クレオが生き甲斐だと言っている飼い主からこの猫を引き離すことなどできませんよね。私たちにはできません。【スライド 57】

Case Study 2: タイガープレイスでの ペットと飼い主の成功事例

- 85歳の女性と12歳のシーズー犬。
- 「ラグズ」(犬)の眼が真っ赤になった。
- 「ラグズ」は DVM の診察を受け、獣医クリニックに連れて行かれた。
- 眼の炎症を抑える治療が開始された。
- ペットケアのアシスタントが午前と午後目薬を投与。
- 「ラグズ」の眼の炎症が治った。

【スライド 58】

2) さて、85 歳の女性、12 歳のシーズー犬がいます。皆さんはシーズー、我々はシズと言うんですけども、日本ではシーズー - ですね。ラグというシーズー犬がいます。そして、突然目が真っ赤になりました。獣医が

診察しまして、点眼薬の投与が必要だということになりました。飼い主の女性は目が良く見えなくて、犬を抱えながら点眼薬を犬の目に入れることができなかったのです。アシスタントが一日に二回訪問して投薬を行い、ラッグの問題は解決いたしました。【スライド 58】

PAWSitive Visits 動物訪問



■ 毎週の動物訪問プログラム(AAA)

■ 動物の種類のバラエティー

■ 動物について学ぶクラス

■ 思い出すこと



【スライド 59】

ポウズティブビジットということで、これは毎週のプログラムなんですけども、さまざまな種類の動物をタイガープレイスに連れて行って、一時間のセッションの中で皆さんに触れ合ってもらおうというものです。ご覧のように、小動物だけではないんです。これはミズーリラバです。この種のラバはミズーリで発達したミズーリ固有の動物なんです。これは本校のマスコットで、ラバのマスコットのティムとテリーです。これは馬、そしてこちらはアルパカですね。ポットベリーピッグも来ましたね。そしてもちろんあらゆる種類の犬と猫が来ました。学生は特定の動物について講義を準備し、ちょっとした授業をします。そしてその後は活発なディスカッションが行われます。高齢者の方々が最も良くできることは何だと思われますか? それは昔のことについて話すことです。なぜ高齢者が昔の話をするかご存知ですか? もしエリックソンの説を信じるとしたら、それは、人間は人生の各段階において、発達する過程があり、それぞれの段階でやらなければならない任務があるということです。高齢者にも任務があります。それは人生を振り返るというもので、人生のまとめ、自分を受け入れることです。そのために、過去の話をし、何度も何度も昔の話を繰り返し、思い返し、考え、自己を受け入れ、そして天国に行く準備をします。私たちは、気持ちの良い状態で天国に行っていたきたいのです。そしてこのクラスで人々は、どんな動物を飼っていたかについて話します。多くの年配の男性は馬やラバなど農場で働く動物を、女性の高齢者の多くは猫を飼っていました。彼らは彼らが子どものころ

に飼っていた、または一緒に働いて人生の生計を立てていた動物について話します。

さて、飼い主を亡くしたペットの基金ですが、とても寛大なドナーの方がいらっしやいまして、ペットより先に飼い主が亡くしまった場合、そのペットの面倒をちゃんと見るべきだという信念の持ち主なのです。彼女が我々にお金を寄付してくださったことでこの基金がスタートしたのです。これが先ほどの猫のクレオとご婦人です。USAトゥデイという新聞でインタビューをされました。非常にエキサイティングでしたよ。彼女は新聞に載ったことがないんだと言っていました。インタビューの時は、彼女の家族が来て、みんなわくわくしていました。この基金の趣旨ですが、これは飼い主を失ったペットの世話をするために提供するものです。施設内（インハウス）で、フォスター（養子）ケアを提供するものです。つまり、ほかの住人が、XXさんが亡くなった後、私がクレオの面倒を見ますと言うことになります。そしてそのケアのための基金を少しばかり助けて差し上げるんですね。でも、ここ、タイガープレイスでは2人の方がペットを残して亡くなっています。その後、だれかがヘラクレスを受け入れたい、私の犬にしたいと申し出て、そしてタイガープレイスでペットを飼っていなかった人にヘラクレスは養子もらわれました。すべての住人がみんなの動物を知っているのも、もし飼い主が亡くなったときに、引き取りたくなるという、ポジティブな考えになるのです。

【スライド 60】

ヒルズのフードプログラムではありますが、獣医大学を通じて提供されています。ヒルズがフードを提供し、そのフードを安価で住人に販売します。この女性の嬉しそうな表情をご覧ください。タイガープレイスというのは、高齢者の健康面でも非常に大きな成果を出しております。このことで、老人ホームへの入居を回避することができ、非常に良い結果を生み、医療システムや、非常に高い老人ホームに入るためのたくさんのお金を節約することができているのです。そしてここタイガープレイスにずっと入居できコストもそんなにかかりません。

ナースケア（看護）の状態が、問題のかなり早期の発見に役立っており、問題が深刻化することを防ぐとともに、深刻化していたら高額になった医療費のコストの削減にもなっています。ことが大きくなると費用がかかります。【スライド 61-63】

ほかにもおもしろいプロジェクトがタイガープレイスにありますが、時間があまりないので詳しくはお伝えしません。でも、覚えておられるでしょうか、ここ

Bereaved Pets Endowment 飼い主を亡くしたペットの基金



- タイガープレイスで飼い主を亡くしたペットをケアするための基金を提供
- インハウス譲渡（養子縁組）

【スライド 60】

HILLS Feeding Program 餌プログラム



- 獣医学校餌プログラムを通じて、低価格のペットフードをタイガープレイスのペットの飼い主に提供

【スライド 61】

TigerPlace/Aging in Place Outcomes for Older Adults (1999-2003)

タイガープレイス年を重ねる場所で過ごす高齢者 成果

- 250名の高齢者の老人ホームへの入居を延期または回避。
- このプログラムに参加した高齢者は（通常の老人ホームなどに入居した高齢者と比較して）：
 - 健康状態が良好（ADL機能、気分の落ち込みが少ない、認識がしっかりしている、失禁ににくい、痛みが少ない、息切れが少ない）
 - 経費の節約 毎月\$1,591（老人ホームと比較）\$483（コミュニティーと比較）

【スライド 62】

TigerPlace/AIP Outcomes 2004-2008

- RN看護介護コーディネーションで大きな病気にかかる機会を減らし、介護の成果を向上し、老人ホームへの入居を減らし、コストを減らす。
- 入居者の費用は（ここで人生を全うしても）、老人ホームの費用に満たない。
- 2008年度の平均費用は、老人ホーム入居者は\$7,331、老人ホームに入居しない高齢者は住居コストを含んでも\$2,591

【スライド 63】

にはたくさんの大学があると言いましたね。その一つが、エンジニアリング、工科大学です。いろいろなセンサーを開発してくれていて、技術を使って高齢者の問題を未然に防ぐということをしてきております。簡単に少しだけお話しします。このプロジェクトに参加を希望した人の所には、いろいろなところにセンサーを置いていきます。そして、どのような活動をしているかをモニターしていきます。その活動のパターンが変わると、何か健康上の問題が起こったか起りかけているかがわかるというわけです。【スライド 64】

これがセンサーです。ごらんいただけますか。これがモーションディテクターということで、動きが検知する装置ですが、いろいろなところにあります。ベッドのセンサーもありまして、しっかりと寝ているかどうかチェックしています。不眠であったらば、うつや心臓発作など健康の問題がこれから起きる可能性があるという前兆なんですね。

これがアパートの事例であります。ベッドルームは一つですね。これが網戸つきのポーチ、リビングルーム、そしてダイニング、キッチン、バスルーム、ウォークインシャワーがついております。そして、クローゼットもあります。センサー、このブルーのラインですね。これを使って行動のパターンを検知しております。センサーですが、この青い線のところで、動作のパターンを察知しています。このセンサーのデータは、このようにグラフにまとめ上げられます。そして、人の活動がどのように変わっているかということが見てとれます。

たとえばこの黒いところは、アパートにいない、不在ということです。これは夜間ですが特に何も起こっていません。眠っています。そして、朝起きて、動き回っています。そして、部屋を出ています。その出入りが激しいですね。非常に活動的な方だというふうに思います。バスルームにもセンサーがありまして、バスルームに行ったことが検知できるようになっています。つまり、トイレということですが、これが月、日、そして時間となっております。ここで夜間一度もトイレに行かなかった人が、突然、夜間のトイレの回数が増えたことがここでわかります。このケーススタディーについてですが、事前に察知し、夜間の排尿がふえることを検知できることで、このシステムの中でアラードが鳴りまして、看護師のほうに不眠の状態が続いているということがわかるので注意して見るようになりますね。【スライド 65-71】

これがケーススタディーです。夜間にトイレに行く回

Other Intriguing Projects at TigerPlace その他の興味深いプロジェクト

- 看護とエンジニアリングのパートナーシップで、タイガープレイスの高齢者ができる限り活動的で自立した生活が送れるような技術の開発と試験を行う。

(Rantz & Skubic)

【スライド 64】

TigerPlace Sensors タイガープレイス センサー



【スライド 65】

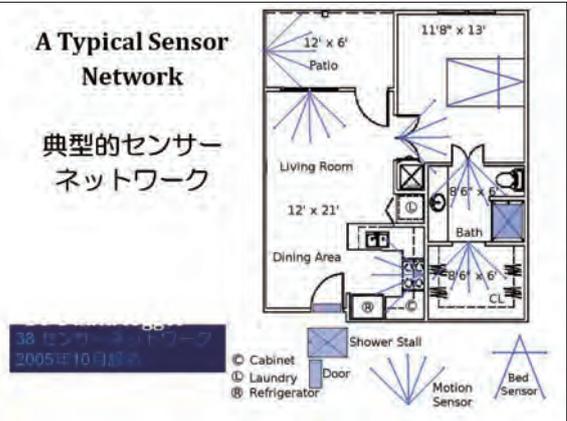
センサー



【スライド 66】

A Typical Sensor Network

典型的センサーネットワーク



【スライド 67】

Web-Based Interface for Sensor Data センサーデータ インターフェイス

- センサーデータを研究者、介護提供者、入居者に表示するためのインタラクティブインターフェイス

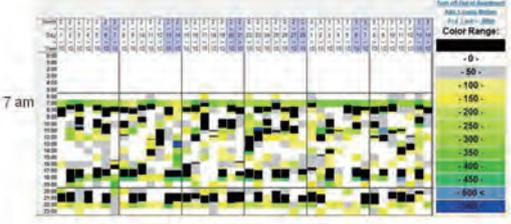


- 毎時から毎日までヒストグラムで表示
- 活動マップ
 - 行動の量、トイレ使用、ベッドで過ごす時間
- 看護、医療、健康情報、ソーシャルワークの関係者、入居者からのインプットを調整

Demiris et al., ICOST 2006; Skubic et al., TH 2009; Alexander et al., NIR 2010

【スライド 68】

Motion Sensor Density Map 動作センサー密度マップ

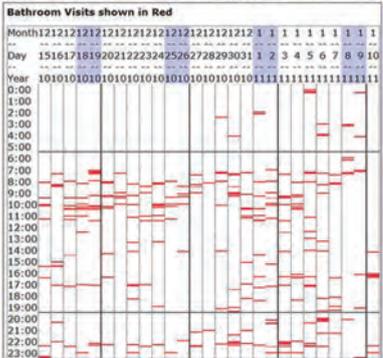


BLACK = time away from home 留守中

S Wang & Skubic, IE 2008; S Wang, Skubic & Zhu, EMBC 2009

【スライド 69】

Change in bathroom activity at night 夜間のトイレの使用



Bathroom Visits shown in Red

【スライド 70】

Early Illness Alerts from Email 病気の初期症状を知らせるEメール

24HR Behavior Alerts:3020
certlogger@zeus.cecs.missouri.edu

Time Frame in Days: 14
**** ABNORMAL BEHAVIORS ****

INCREASE in Bed Restlessness (3.05 Deviation) [Submit Feedback](#)

CERILogger 4.23

インターアクティブセンサー インターフェイスへのリンク

看護からのフィードバックは今後のより正確なデータベース構築のために使用される。

Rantz et al., HealthCom 2011; Alexander et al., J. of Healthcare Eng., 2011

【スライド 71】

Case study: Early detection of older adult's health problem ケーススタディー：高齢者の健康問題の早期発見

- 特に夜間のトイレ使用回数の増加は、健康に問題があることを示しているかもしれない。
- 二つのアラート（警告）を基に、ケアコーディネーターが入居者を査定し、医者に照会。
- 入居者は膀胱炎と診断され、抗生物質治療をはじめ、完全に回復した。

【スライド 72】

数が増え続けています。そして、二つアラート（警告）が出たので、医者がその住人の方を診察しました。そしてその人が膀胱炎、尿路感染を患っているということがわかりました。これは高齢者にとっては大変大きな問題で、直ちに治療しなければ、深刻な事態に発展しかねないようなものです。尿路感染から、敗血症になる場合があります、それは避けたいのです。すぐに抗生物質を投与して、大事に至らず治りました。

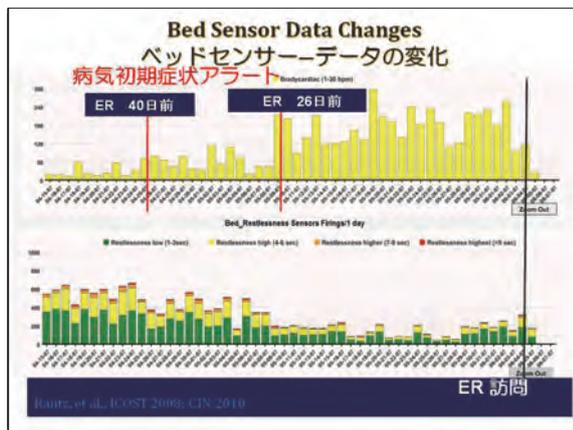
【スライド 72】

NIH study results after 6 months NIH調査結果 6ヶ月後

- 統計的に見て、コントロール（制御）グループとテスト（試行）グループ（病気初期アラート付き）では明らかな差がある。
- GaitRite でさまざまな足並みパラメーターを測定。
 - 左手平均握力（筋力の測定）

【スライド 73】

NIHリサーチというには、タイガープレイスの研究にNIHが資金提供してくれています。結果でありませんが、統計的に見てコントロール群、そしてテスト群と大きな差があるということがわかりました。左手の平均握力というのをはかったんです。そして、足並みのパラメーターを測定いたしました。これがベッドセンサーのデータ、これが心拍のデータですね。ベットセンサーで心拍も測定します。そしてそれが徐脈（心拍・脈拍の低下）のケースを示しています。心拍または脈拍が一分間に30を切ると、これは高齢者の場合、睡眠中であっても危険な状態あるということです。この方は、しばらくの間きわめて正常だったのですが、突然心拍がゆっくりになりました。こちらの方が通常な活動を示して



【スライド 74】

Pending MU-GE Proposal

未決定のミズーリ州立大学-GEプロポーザル

- 自立や慢性、急性症状などを探知するセンサーテクノロジー探知機
NIH, Rantz (PI), 220万ドル
- 脈拍、呼吸の速さ他などを測定する新しいベッドセンサーの開発と評価。
レーダーベッドセンサー (GE)
水カベッドセンサー (MU)

【スライド 75】



【スライド 76】

Current Joint MU-GE project

ミズーリ州立大学とGEとの共同プロジェクト

- 高齢者住宅で転倒や転倒リスクを感知するテクノロジー
AHRQ, による資金援助\$1.9K (Rantz, PI)
タイガープレイス用GEレーダーセンサーの開発とテスト

【スライド 77】

いて、少し寝苦しさはあったようですがひどくはありません。しかし突然、ここの心拍が落ちています。そして、動いていないということがわかります。そして、即座に治療を受けることができました。GEのほうでも受動センサーの提案があります。スマートカーペットという商品を開発しているところで、歩幅や歩行の速度を測定するものです。これも別のベットセンサーの事例であります。マットレスの下に設置して、不眠の状態や深さを察知します。またこれは、新たなプロジェクトで、転倒のリスクを感知するというのもできております。簡単にお見せしましょう。これはレーダーを使う感知器具で、これがボックスの中です。このデータを使って、室内での人間の行動のパターンを測定するようになっています。冷蔵庫の上にコンピューターがありますよね。ですので、余り人目につかない、問題が起きないようにしています。

これがレーダーを使った結果です。歩行のパターンがわかります。そしてこのシルエットのイメージで、足跡のマッピングもできます。それで歩行速度や歩幅もわかります。これらに変化が認められると、何か問題が起こるかもしれないと予測できるわけです。結構クールですよ？このテクノロジーを使うという考えですが、高齢者の方々はこれはクール、格好良いと思います。高齢者はこれらのセンサーを前向きに受け入れ、興味を持ち誰かが自分たちのところを見守ってくれているということについて安心感を持ってくれるようです。そして情報は全て高い守秘性で守られるので、プライバシーが侵されているというふうには考えないようですね。【スライド 73-81】

ペットプロジェクトのまとめでありますけれども、高齢者というのはペットを持ちたいと思っています。タイガープレイスに来たいという第一の理由は、ペットと共にいられ、ペットと共にいることを支えてもらえるからだと言うことです。逆に世間では、自身も一人なうえに、だれかに、もう犬は飼えないよ、と言われるのが常です。タイガープレイスではありえません。もっと人道的なんです。

ですからタイガープレイスでは安心して人もペットも歳を重ねていただきたいと思っています。

では、更なる情報がおも望みの方はこちらから情報が得られると思いますので、私のプレゼンテーションはこれまでといたします。【スライド 82-84】

Radar Installed in TP Apartments 設置されたレーダー



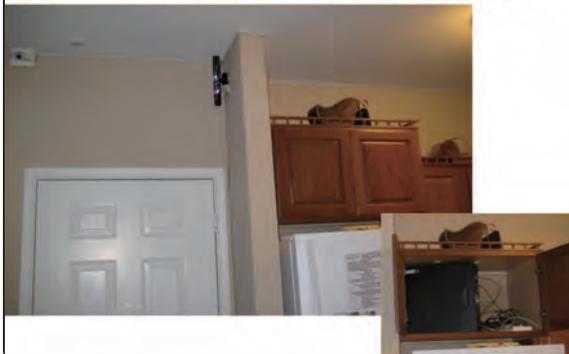
【スライド 78】

Conclusions: Seniors and Pets まとめ：高齢者とペット

- 高齢者はペットと共にタイガープレイスに入居を希望する。
- 介護の必要度が高くなっても、従来の「ペット辞め」の状況にならず、より人道的な環境である。
- タイガープレイスでは、ペットも共に年を重ねる。

【スライド 82】

WebCams and Kinect for Ground Truth



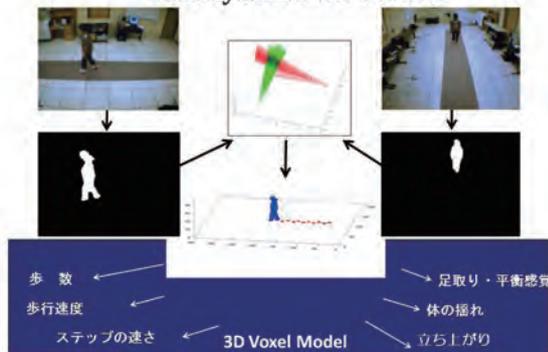
【スライド 79】

Additional Information & Papers さらなる情報&論文

- TigerPlace Pet Initiative (TiPPI)
www.rechai.missouri.edu
- Center for Eldercare and Rehabilitation Technology
www.eldertech.missouri.edu

【スライド 83】

Anonymous 3D Model



F. Wang et al. 2009, 2010; Stone et al. 2010, 2011; Banerjee et al. 2010, 2011

【スライド 80】

And now for
your
questions.....



【スライド 83】

Conclusions: Residents & Technology まとめ：入居者とテクノロジー

- 高齢者はセンサーデータの所有権を持つ。
- データに誰がアクセスできるのか把握し管理する。
- テクノロジーは、ニーズがあり、メリットがあるかを考えて導入。
- ニーズとメリットのためにプライバシーが犠牲になる。
- 高齢者は自分たちのニーズを過小評価する。
- 高齢者はテクノロジーの見かけを気にする。
- 高齢者はテクノロジーを受け入れる。もし：
 - ニーズに合う。
 - 適切なインターフェイスがある。(感覚の限界に合うもの)
- シルエット映像だとプライバシーを侵害されたと感じない。

Demisir, Parker Oliver, Dickey, Slatbic, Rantz, *Technology and Health Care*, 2008
Demisir, Parker Oliver, Giger, Slatbic & Rantz, *Technology and Health Care*, 2009

【スライド 81】



○レベッカ・ジョンソン

もし時間があるようでしたら、質問をお受けします。時間はどうですか？30分？ちょっと早足に過ぎましたかしら。時間が心配だったものですから…どうぞ質問なさってください。そして、議論もしたいというふうに思っております。どうぞ遠慮なくなさってください。

○質問者 ……。

○レベッカ・ジョンソン

はい、タイガープレイスはだんだん、大学の教職員の退職後の住処になりつつあります。タイガープレイスを知っている人たちはみな、その時が来たら入居したいと希望しているようです。私もそうです。タイガープレイスに住みたいと思っています。そんな質問をしにくさざり、ありがとうございます。

さて次は？良い機会ですのでどうぞ質問してください。

○質問者

……。

○レベッカ・ジョンソン

一番の大きな課題は、いわゆる老人ホームの産業というのがありますね。何十億もの膨大な利益を上げるような産業なんですね。この産業がタイガープレイスのような施設を望まなかったということです。なぜなら人はみな、年間6万から8万ドルも支払って老人ホームに入るより、タイガープレイスのようなところに住みたいのだということに気付いたからです。ですから彼らは州や役所や議員に陳情活動を行って、ミズーリ州に新しい法律制定し、タイガープレイスができるのを阻止しようとしてきました。老人ホーム業界からの反対があまりにも大きかったので、タイガープレイスを作るには、2つの新しい法律を導入しなければなりません。考えられないようなことですが、そうだったんです。これが最も大きな挑戦でした。

そして、もう一つの課題なんですけれども、それは、タイガープレイスがどういうものかというメッセージをどう伝えるかということでした。タイガープレイスは全く新しいものでした。そして、コミュニティーの中ではなかなか理解してもらえない、ここが老人ホームよりどう良くてどう違うのかわからない人も多いわけですから、我々としてはコミュニティーでの教育活動が必要だと考えました。人々に対して教育を施す、そして説明をする。そして、実際に我々の施設を見てもらうということをしました。そうした結果、入居待ちのウエイティングリストが長くなりました。

○質問者

これから、このプロジェクトを世界じゅうに広げていく意図はありますか。

○レベッカ・ジョンソン

そうですね、タイガープレイスには、毎月他の州や他の国から視察者が来ていますよ。何をしているかということを訪ねて見ていけます。他の州でもこのような施設を作りたいという動きがあります。タイガープレイスは他の高齢者施設とは全く違うモデルです。非常に力強いものだと思います。そしてホットなもの、熱いもので、人々が今これに追いついていこうとしています。

○質問者

これは素晴らしいことだと思いますけれども、高齢者が犬や猫を持つときに、そのシェルターから犬や猫をもらってくるのでしょうか。

○レベッカ・ジョンソン

犬や猫を持ちたいというふうになりますと、即座に探してきます。その町のシェルターに行くんですね。私どもの街には三つシェルターがありまして、そこからペットを探してくるわけなんです。希望者を実際にアニマルシェルターに連れて行って、そして実際に動物を見て決めるんです。

○質問者

子犬を例えばパピーミル（子犬工場）から買ってくるというようなことは？

○レベッカ・ジョンソン

それは絶対ありません。私はここは資格のある立場で申し上げないといけないのですが、残念ながらミズーリ州は、アメリカでも最もパピーミル（子犬工場）の多い州です。ペンシルバニアが2番目、私たちが1番目なんですね。これはひどい問題です。そんな所からは買いませんし、レスキューもいたしません。

どうぞ、ほかに何か質問ございますか。

今度は皆さんから伺いたいと思います。このモデル（タ



イガープレイスのようなところ)はどう思われますか。日本ではどうでしょうか。皆さん、高齢者が家族の中にいる場合、どのように介護していますか、家で看護しておられるのでしょうか？異世代が同居して住んでおられると、私どものようなこういったモデルは、日本でうまくいくのでしょうか。柴内先生、いかがですか。

○柴内先生

ありがとうございます。素晴らしい内容のお話をありがとうございます。

私たちは動物との絆にかかわる仕事をしておりますと、高齢者の方たちは、もう最後のたった1人の家族としてペットを大切にしていってらっしゃるんですね。どんなに素晴らしい高齢者の施設であっても、ペットと別れて暮らさないといけないのであれば、それはその方にとっては決して幸せな場所ではありません。人は最後までペットと一緒に暮らしたいと願っているのです。ですから私も動物とともに暮らせる高齢者施設が日本にもできる限りたくさんできればいいと望んでいます。ですから、これは素晴らしいモデルです。ただしこの内容を伺いますと、ミズーリの州立大学、看護、そして医療の大学がこのプロジェクトをサポートしている、これが成功の鍵を握っているのだと思います。もし、もちろん日本でも、そうした大学などで協力してくれるようなところがあれば、よりよいということ強く感じています。日本でもぜひ、これは可能な限り進めていきたいことだと思います。

○レベッカ・ジョンソン

素晴らしいですね。ありがとうございます。そう言っていたかと非常にうれしいです。

そうです。やはり協力というのが必要ですよ。そして、高齢者の人々がペットと、より良い生活を提供するのだという決意を強く持つことです。そして私が申し上げたいのは、獣医学に呼びかけてイニシアチブをとって欲しいということです。そして、さらに医学、看護学のほうでも、やはりイニシアチブをとってもらう必要があります。そして共に協力しあってこのようなものを作り上げることです。というのは、1人ではできないんですね。やはり協力して、それぞれの専門部門で力をお合わせる必要があります。やはりミズーリの獣医学の協力がなければ、私たちもうまくいかなかったと思います。リーダーがいたんですね。お金という意味ではなくて、喜んでいろんなアドバイスや指導、あるいは協力、参加という形でサポートしてくれるリーダーの人々の協力があって、タイガープレイスが可能になったのです。私はみなさんには、必要ない

ろんなリソース、資源をお持ちだと感じています。ここにも素晴らしい専門家の方々がおられると思います。獣医学会、ペットプロダクトの協会であるとか、ペットフード業界とか、喜ばしいことにさまざまな協会や組織があります。力を合わせればきっとできます。やってみてください。

これは、素晴らしい生き方です。人々にも、そしてペットにも。でもやはりリーダーシップが必要です。

○柴内先生

動物と人と両方に、本当に心あるリーダーシップを持った方がこれに携わらなければいけないとつくづく思いますが、今ちょっとこの写真を見ますと、ニワトリさんもいますけど、このタイガープレイスでは犬と猫だけでしょうか、一緒に住めるのは？

○レベッカ・ジョンソン

おもしろい質問です。我々のコロンビア市ですけれども、市協会で条例が通りまして、「アーバンチキン」、いわゆるニワトリを家で飼うことができるということになりました。非常にタイガープレイスでも興味を持っておりまして、ニワトリを持つということも考えているわけです。新鮮な卵とか世話をする楽しみといかがありますので、ニワトリと暮らす人が出てくるでしょう。まだないんですけれども。希望者がいらしたら、可能です。ちょっとタイガープレイスがにぎやかになるかもしれません(笑)。

○柴内先生

私も日本の国内で、ある高齢者の施設に以前、大分前になりますけど、お尋ねしたんです、関西だったと思いますが。そうしましたら、その施設に入ると、玄関からハウスまでの間に、羊と、それからニワトリが両側に飼育されていまして、私がおそのことに携わっていることを御存じで、何かこれを活用する方法はないだろうかと聞かれたことがあるんですね。そのときに私は、ニワトリは卵を産むので、高齢者の方にニワトリの卵集めのプログラムと、それから羊さんの被毛のブラッシングのプログラムを提供したことがあるんですけど、今続けていらっしゃるかどうかちょっとわかりませんが、そうした動物たちがさまざまな、してもらっただけではなくて、してあげられるという相手になるという意味で、とても価値が高いと私は思います。

○レベッカ・ジョンソン

おっしゃるとおりですよ。生きる目的というのはみんな必要なんです、死ぬまで。生きる意味、生きがいが必要なんです。高齢者にも生きる目的があるべきです。動物の世話をする、卵を集める、そして羊のグルー

ミングをする。すべて生きる目的になり得ます。そういった目的を与えてあげたいと思います。老人ホームに閉じ込めて、長く苦しんでそして死ぬということではいけないと思います。

獣医学のすばらしいところは、患者さんの苦しみをも緩和してくれるということなんです。人の医療というのは、これを見ていく、できるだけ観察していくということなんですけれども、獣医学では、もう望みのないひどい痛みや苦しみから救うために、安楽死を提供することができます。人の医療ではそれはできません。ですので、それぞれに学び合いながら、高齢者にとっても、生きる限り生活の質を担保してあげるのにはどうしたらいいか考えたいと思います。ペットというのが非常にこの上で大事になってくるかと思えます。その無償の愛というのが大事なんです。

私たちが感じること、それは神経の化学物質の反応にも影響があるんですね。私たち、身体的なもの、感じるもの、すべてがそれにかかわってくるんです。例えば、ペットと接するとコルチゾール、あるいはストレスホルモンが減る、そしてオキシトシンが上がってくる、分泌が上がるんですね。そして、フィロフェリンというのが分泌される。そして、ノルエピネフリン、リラックスするために必要なんですけども、そういった物質が分泌されるんですね。ですので、神経科学的な反応というのがあるんです。できるだけ身体的、あるいは精神的にも健康にいてほしいというふうに考えております。ほかに。

○質問者

たくさん質問があって済みません。

ペットを持つというのはすばらしいですよ。やはり免疫系にもいいということはわかっているんですけども、しかしながら動物虐待というもの、これがまだやはり問題だと思えますけれど、動物を愛す、そしてペットと暮らすというのはハッピーなものだと思うんですけども、しかし世の中には、動物虐待、時には殺したり、ダメージを与えたり、そういった残虐な人もいますね。こういうことはどのように考えられますか。

○レベッカ・ジョンソン

タイガープレイスというのは、動物が嫌いな人は入っていないんですよ。動物が嫌いな人は選択しません。動物が好きであればタイガープレイスに来るというふうに。動物が嫌いならタイガープレイスに住みたいとは思いません。というのは、動物がいつも一緒だからです。ですから、ここには来ないと思います。

ですから、私は、ここでは全人類の全部の問題を解決する約束をしているわけではありません。あくまでも動物に対して好意的な人たちの話をしているのです。そして、自分たちの人生に動物がいることがサポートとなり、豊かであり続け、身体的にも精神的にも利益が生まれます。

もし動物に対して非人道的な人々についての話をしなければならぬのなら、これはワインを飲みながらでも話し合ったほうがいいかもしれませんね。私は動物にやさしくできない人にはあまり関心がありません。

私の子犬の写真お見せしましたよね。かわいかったですよ？ 今6歳で85ポンドなんですけれども、85ポンドって結構、体重としては大きいんですね。50ポンドのイングリッシュセッターと、さらに猫、メインクーンキャットが家で待っています。

○質問者

二つ事例がありましたよね。ペットの前に飼い主が亡くなってしまうということでありましたね。でも逆の場合、つまりペットが飼い主よりも先に死んでしまうということもありますよね。まだそれが発生していないのかもしれませんが…。私もペットロスで苦しんだ経験があるのですが。こういった逆の場合はどうしたらいいのか、まだこれからのことかもしれませんが…。

○レベッカ・ジョンソン

そうですね、まだ幸運にもそういった経験はないんですけども、起こることです。私たちは、毎週のセッションを使って、そういった場合に対処したいと思えます。このクラスに参加される方は非常に動物に興味を持っている、大好きな人たちです。このセッションを使って、ペットを亡くしたときにそれについて話をし、サポートをしてあげたいと思います。愛をあげたいと思います。これは非常に皆さん御存じかと思えますけれども、ペットロスというのは大変な問題だと思います。ありがとうございます。すばらしい質問だったと思います。



ほかに。柴内先生、どうぞ。

○柴内先生

今のペットロスのことでもそうですが、きっと、たった1人ではないという、もしタイガーハウスの中で動物を失ったときでも、同じように動物を愛する人がたくさん周りにいてくれるということも、それから、それをケアする獣医療関連の方たちも入ってくださるということで、たった1人で取り残されてしまった高齢者に比べれば、きっとお隣の部屋のわんちゃんとか猫ちゃんとも触れ合う機会もいただけるでしょうし、さまざまな意味でサポートされると思うんですね。それとまた、ほかの動物のお世話を一緒にしてもらおうとか、そういう意味で、きっとペットロスも大きな形でサポートされるようなシステムだと、こういうふうに思います。

それから、たしかウィーンの郊外の民間のシェルターに前に伺ったことがあったんですけど、そこは古いところから新しいところに移動してまだ2週間というところでしたが、まだ設備も全部整っていないところを見学させていただきました。そうしましたら、地下に何も無いお部屋、何も設備されてない、ただシャッターのようなものがついてだけの部屋が六つあったんですね、右左に。それをどうするんですかと申し上げましたら、ヨーロッパでは、やはりそれぞれが生活してらっしゃる中で、大変に家具類も高価なものを歴史的に維持している家庭が多くて、その高齢者の方が亡くなるときに、そのシェルターに遺産相続をしてくださるんですね。それが大きな基金になるので、もちろん金銭的な基金だけではなくて、家具まで受け取ると。その家具をこのお部屋に受け取るんですよということを見て、私は大変驚嘆といいますか、感激したんですけども、そうしたいいわゆる生前相続とか、死後のそうしたタイガープレイスにお住まいの方たちの中にも、そうした動物のお世話になったから動物をケアしてくれることのシェルターに、または自分がもし先に逝ったときに残った自分の子のために寄贈したいというような方たちとかですね。

最近、私も臨床の場にいますので、患者さんが、自分がもし急に、今は日本も大変災害が多いので、若いから長生きするとは限らないような、大変厳しい意見もたくさん出ます。その中にいますと、ひとり暮らしの若い方も、それからまた高齢者の人も、自分が急にもし何かがあったら、この猫のために基金を寄附しておきたいといったような約束をしたいと言って、弁護士さんを通じて手続をする方たちも出てきてる世の中

なんですね、日本では。そんなことから言いますと、タイガープレイスもそのようなシステムというのは構築していらっしゃるのかどうか。長くなりましたけど、教えていただけたらと思います。

○レベッカ・ジョンソン

基金がまずありますね。すなわち、ペットに対してのケアを提供するような基金なんですけれども。それから、これは私申し上げなかったんですけども、例えばほかの住民が、例えば旅行に行ったり、入院したりした人のペットを自分がケアしますよとボランティアするようなシステムになっています。タイガープレイスはそういった総合的なサポートをすることができる場所なんですね。

さらに重要なことは、我々の獣医はみなさんの友達だということですね。実際にクリード先生のことを、みんな大好きなんです。クリード先生は毎月来ますし、そのみんな彼のことをよく知っており、喜んで話をします。そして彼のことを心強い存在だと認識しています。ペットが亡くなってしまった場合でも、クリード先生は、ジェネラルドクター、一般開業医なんですけれども、獣医さんのほうが親切でもっと尊敬されてるんですね。クリード先生は、ペットを亡くしてしまった場合に、会いに行って、話に行き行って慰めてくださる存在だと私は確信しています。みんなクリード先生を愛していますし、よくわかっているんですね。

柴内先生、そうですね。柴内先生は日本でたくさんの方をこれからしなければなりませんよね、獣医でいらっしゃるから。これからたくさんの方が待っているのではないですか(笑)。

きのう話し合いましたよね。

○柴内先生

先生にお褒めいただいて、調子に乗ってお話するつもりではありませんけれども、私、この中で一番威張れるのは、最年長だと思うんですよ、この会場で。現在もまだ働ける理由は、きっと動物と接触する機会がずっとあったので、それでエンドルフィンが出た



りオキシトシンが出たりして、それで健康を保ってるのではないかと、こういうふうに思ってます。私お手本ですから、皆さん大事にしてください。よろしくお願いします。

○レベッカ・ジョンソン

おっしゃるとおり。キャップの皆さんと老人ホームに行ったことがあります。私、24時間、私のペットを見なかったんです。オキシトシンを分泌するためにペットに会いたいなと思いました。

どうぞ。

○質問者

大変すばらしいお話をありがとうございました。

私どものことも御紹介いただきましたけれども、実は柴内先生にも協力をいただいて、私どもも高齢者の特別養護老人施設に訓練されたペットを寄贈させていただいて、そのフードをタイガープレイスと同じように提供させていただいてるんですが、ただ、タイガープレイスのような形が日本には一番いいのかなというふうに先生のお話を伺っていて思ったわけなんです、実は日本は先進諸国の中でも高齢化の進み方が一番早くて、今、65歳以上が23%、あと50年後(5年後?)には40%になるということなんですが、日本は1,400兆円の金融資産があるんですが、その7割を高齢者の方がお持ちなんです、実は、ある高齢の御婦人がひとり暮らしでペットを飼ってらっしゃって、自分が先に行ったら、先生、この子を世話してくださいということで300万円出されたんですね。その先生は本来、そういう高齢者の方をケアする、そういうシステムを日本で作りたいので一緒にやらないかということを実は私ども会社のほうにも持ってこられたんですが、できれば、このタイガープレイスのような形が日本が一番必要としているのではないかなというふうに思いました。

タイガープレイスの中で、もしデータがあったら教えてほしいんですが、例えばタイガープレイスで生活をされていらっしゃる高齢者の方の延命効果といいますか、あるいはQOLという部分で、ほかの施設の特別養護老人施設で暮らしていらっしゃる高齢者と比べて、いろんなそれぞれコメントがおありになったら、そういったこともちょっとお聞かせいただきたいことと、もう一つは高齢者の方、今現在タイガープレイスに何人いらっしゃって、ペットがどれぐらいいらっしゃるのか。その割合としてはどんな割合で暮らしていらっしゃるのか、その辺についてもちょっとお伺いできれば大変ありがたいなと思います。

○レベッカ・ジョンソン

ありがとうございます。

タイガープレイスには、今17のペットがおりまして、85人の入居者がおります。今、データを集めておりまして、身体的な機能はどうなっていくか、そして自分で感じる主観的な健康はどうなってるか、サポート状態はどうかということを、今、データを集めておりまして、3カ月ごとにそういった経時的なデータを集めております。まだ累積ということにはなっていないんですが、常にデータは集めております。ですので、これから先、多くのことが比較できると思います。まずは、ペットオーナーとペットを持っていない方の比較ですね。そして入院の数、そしてドクターの訪問の数、そして老人ホームのほうで調査に参加協力してくれるというところもありますので、今データを集めておりまして、経時的なデータであります、まだ回収して比較するところまではいっておりません。ありがとうございました。

○質問者

済みません、ほかの方の質問とちょっとまた全然違うことを聞いてしまうんですけども、お話を伺っていると、老人ホームとはまた違うアプローチをされているということなんですが、入居者の方の入居動機をちょっと聞きたいんです。家族の方が勧めて入られる方が多いのか、それとも本人が進んで入りたいと思って入られる方が多いのか、教えてください。

○レベッカ・ジョンソン

両方ですね。

最初にタイガープレイスの広告をしましたとき、非常に興味深かったのは、家族が我々のところにやってきて、私の親をぜひ連れていきたいんだということ言ってきました。ですから、家族がまず初めに、最初訪ねられたということがありますが、しかしながら、さらにタイガープレイスの入居者がどんどん増えるに従い、高齢者の人たち自身が電話をして、実際にタイガープレイスを見たいんだと言ってきました。非常に興味深かったんです。いろんな変移が面白いですね。最初は若い、すなわち子どもさんたちがやってきたんですけど、今度は実際に御自分が来られると。私が行きたいんですというふうにコンタクトをとられます。

○質問者

こんにちは、はじめまして。私、岡山から本日こちらのほうに参加させていただきました。

岡山のほうでは、老人保健施設という施設で、セラピードッグという犬を連れて活動している者なんです

けれども、私たちは今、いろいろ活動の中で、日本でいう認知度、英語で何ていうのかちょっとわからないんですけど、認知度がいろいろ、1から5段階までありまして、その認知度の違いで、犬に対する、何というか、違うんですよ。自分でわかって飼ってらっしゃるのか、自分でわからずに、何ていうか、ちょっと済みません、緊張してうまく説明できないんですけども。

今、そちらのタイガープレイスさんに入居される方の認知度は、どのようなレベルの方がいらっしゃって、皆さんすべて同じ対応をなさってるのか、認知度が違うと皆さん分けてされてらっしゃるのかということろをちょっと教えていただきたいなと思いました。済みません、うまく言えなくて。

○レベッカ・ジョンソン

すばらしい質問ですよ。

タイガープレイスにまず来られた方は、認知的に正常な状態なんですね、問題はないんですね。いい状態なんですね。でも、それが変わっていくんです。たくさんの方々の認知レベルというのが落ちていく。もちろんタイガープレイスで住居されている間に、ペットオーナーの方でも認知が下がってくる場合があるんですね。ですから、ペットケアのシステムというのが大事になってくるんです。給仕をしているか、えさをあげているか、忘れていないかということをチェックするんですね。そして、ペットの健康状態がいいかということをチェックします。もちろん認知度によってペットのケアの仕方が違ってきますよね。えさを忘れてしまったり、散歩を忘れてしまったり。ですから、ペットケアアシスタンスというのが、ここでもっと必要になってくるんですね。高齢、加齢してくると、その認知が下がってくる。ここも先ほどおっしゃったデータを集めている一端なんですけれども、認知度というのも今データを集めております。そういうことが起こることもわかっています。そうすると、ケアがもっと必要になっていく、ヘルプが必要になっていくんですね、そういったことが必要になってきますから。よろしいですか。

どうもありがとう。

○戸塚座長

ジョンソン先生、すばらしいお話をいただきまして、本当にありがとうございました。皆様、拍手をお願いいたします。